

令和3年度地域生涯学習活動実践交流セミナー

『しりべしジュニアリーダー ワークショップ事業』

～地域の未来を担う自己肯定感・自己有用感の
高い若年層の育成～

令和4年2月15日 オンライン開催
後志社会教育主事会

発表者：小樽市教育委員会生涯学習課 佐野 英昭

しりべしジュニアリーダーワークショップ事業 開催に向けて

後志管内では、担当者研修会は実施していたが、**管内広域での事業**は実施していない。

- 【課題】
- ・ 20市町村ある後志で**統一**した事業が可能なのか。
 - ・ 事業の**主催者**はだれが担うのか。
 - ・ 事業**形態**はどうするのか。
 - ・ 事業に係る**予算**はどうするのか。

後志全域で何を切り口
に事業に取り組むか

～若年層の自己肯定感・自己有用感～

- 【原案】
- ・ 教育局と主事会役員にて打ち合わせを行い、**素案**を作成。
 - ・ 各市町村教育委員会に向け、要項及び事業実施についての**合意**を図る。
 - ・ 教育委員会協議会より**予算の執行**について確認を行う。
 - ・ **主催は主事会**とし、教育局をはじめ関係者をつなぐこととした。

しりべしジュニアリーダーワークショップの概要

目的

管内の中高生が地域課題の解決に向けた実践的な学習活動を行い、次世代の地域リーダーとしての資質向上を図るとともに、地域への愛着を育む。

①事前研修（R3はオンライン）

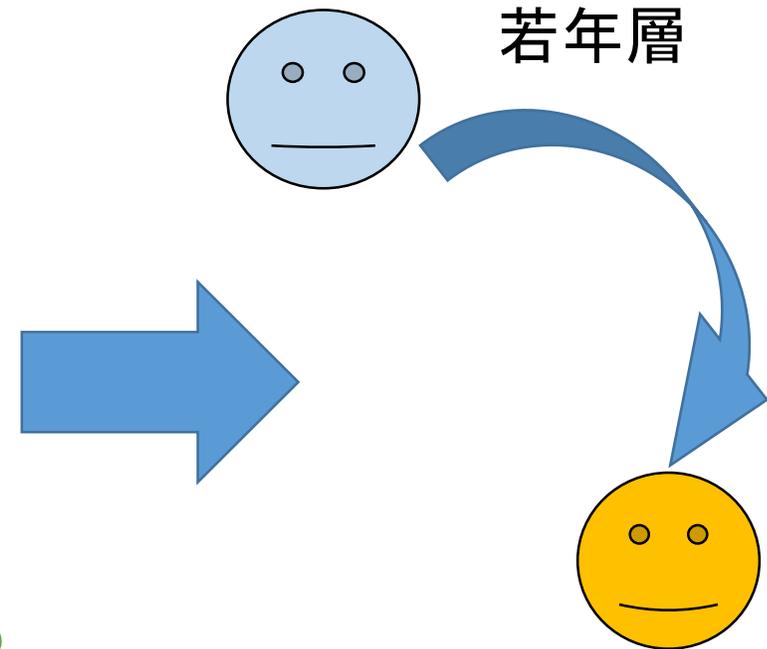
- ・ジュニアリーダーとは？⇒講話を通じて感じる

②事業参画（7月から11月）

- ・それぞれの市町村の事業へ参画

③事後研修（R3はオンライン）

- ・中高生の交流と発表



未来の地域の担い手へ

事前研修の様子

- 期日 令和3年7月28日（水）
午後1時30分より
- 場所 オンライン（一部合同会場）
- 主な内容
 - 講話① 「地域活動ってなに？」
講師 NPO法人ezorock代表理事 草野 竹史 他
 - 講話② 「リーダーとは？」
講師 後志教育局社会教育指導班主査 田中 尚史 氏
- 参加者 中学生12名 高校生8名



事前研修 参加者の感想

【 研修前 】

- ・ 自分から行動して何かをしようとか、進んでやろうとかはあまり思えていなかった。
- ・ とてもわからないことがたくさんあって不安な気持ちでした。大変そうだなとか、とても難しそうなきががしました。緊張していた所もあり、とても嫌がっていました。

【 研修後 】

- ・ リーダー的存在となる人は、目立っている人しかないと考えていたけど、誰にでもなれるということやそもそもリーダーは必要ということが分かった。
- ・ この会議にはいろいろな中学校や高校の人達が参加していて、自分たち以外の人がいるのが驚きました。今日学んだことをこれからの生活や劇に取り入れていきたいです。
- ・ 今回の話を聞いて、自分の意見を発言したり人の意見を理解し共感して支えてあげられる人になりたいなと思いました。

事業参画

それぞれのまちでの事業

- 小樽市 : 『樽っ子学校サポート事業』
- 島牧村 : 島牧ジュニアリーダーワークショップ
- 寿都町 : 令和3年度自然体験キャンプ
- 蘭越町 : 蘭越町ジュニアリーダーワークショップ
- 留寿都村 : るすつジュニアリーダーワークショップ
- 喜茂別町 : きもべつジュニアリーダーワークショップ
- 倶知安町 : 読書プロモーション計画
- 共和町 : 世代間交流会への企画・参加
- 古平町 : 少年少女わんぱく王国への参画
- 赤井川村 : 弱点克服学習会
- 余市町 : 余市紅志高校演劇部の紹介
- 黒松内町 : 留学生ふれあい交流 IN 黒松内

【事業概要】

小学生から高齢者までを対象に夏、秋、冬の3回実施している。
昔遊びや、もの作り、レクリエーションを行い世代間の交流を図っている。
また、近年はALTにも参加してもらい、異文化交流の場としての役割も果たしている。

【事業の補足説明】

- ・ 1回目打合せ 10月 4日（月）事前説明会
- ・ 2回目打合せ 10月18日（月）事前練習
- ・ 世代間交流会 10月23日（土）本番
- ・ 中学生ボランティアはレクリエーションの進行を担当。

【事業の成果と課題】

- ・ 当日はレクじゃない場面でも積極的に子どもたちをサポート！
- ・ レクではどうすれば皆が楽しんでくれるかを考え、進行！
- ・ 中学生の頑張っている姿を見て、参加者も盛り上げようと交流会全体の雰囲気UP！



結果として…

- ・ 世代を超えて一体感が生まれた。
- ・ ボランティアとして参加してくれた中学生が、次回の世代間交流会に周りの友達も巻き込んで、参加の申込をしてくれた。



【事業の概要】

中高生ボランティアが村の事業に参加し、事業の企画運営を行う。

【事業の補足説明】

- ・ 夏休みの児童クラブに参加し、勉強を見たりレクリエーションを考えたりする
- ・ 通常は指導員2名体制で活動しているが、夏休み中は指導員1名しか対応できず、ボランティアを活用。

【事業の成果】

- ・ 参加した児童は普段と違う活動ができたことで喜んでいました。
- ・ 生徒は実施前は不安等を抱えていたが、活動を終えて達成感を得られた。
- ・ 事業後ほかの事業でボランティアの募集をした際、積極的に参加するようになった。

【課題】

- ・ より多くの事業で中高生ボランティアを活用できるように
- ・ 募集から事業実施までが短く、参加者同士で内容を協議する時間がとれなかった。



図書室の仕事を体験しながら小中学生にお薦めの図書を選び、自分たちのオリジナルポスターを作って小中学生の読書活動の推進と町図書室の利用促進を目指す事業。活動期間は主に夏休みを利用し、活動日程やポスターデザインはすべて参加者が決める。

子どもたちへ勧める図書は「大人の目線」ではなく、本を読む「子どもの目線」で選ぶことも必要。今回は小中学生への読書活動推進のため、参加者をあえて中学生に限定した。

成果

- ポスター展示による子どもや利用者への読書推進効果
- 参加生徒の主体性・協調性をの育成

課題

- 子どもたちにとって一番身近な学校図書室も視野に入れた活動を行いたい。



蘭越ジュニアリーダーワークショップ

【事業の概要】

- 参画者 蘭越高校地域デザイン同好会 3名
- 期 日 令和3年9月～12月
- 内 容 同好会の研究内容を町広報誌に執筆する
- テーマ 蘭越町の活性化

【事業の補足説明】

本事業は蘭越高等学校地域デザイン同好会の生徒が「蘭越町の活性化」を研究テーマにし町内にある廃校になった学校の活用方法について調査・研究をおこないました。実際に町内の廃校を活用している民間企業「湯ノ里デスク」に取材を実施しました。

取材内容は、廃校を実際に活用するメリットや活用することになった経緯などを質問しました。

取材・研究した後に、調査した内容をまとめ、町広報誌への執筆作業に取り掛かりました。

広報誌へは掲載する内容や紙面のレイアウトを自分たちで考え作成しました。

町広報誌の12月号に掲載されております。

【成果】

参加した生徒は自発的に活動していた。また、作業を分担したりなど参加者同士が効率よく取り組んでおり、協調性を養うことができた。

【課題】

同好会の活動の1つとして今回実施したが、他の活動と時期的に被ってしまっていたので次年度以降は調整が必要になる。



事後研修

~~○期日 令和4年1月21日（金）
午後16時~~

○場所 オンライン（一部合同会場）

○主な内容（予定）

- ・オリエンテーション
- ・参加者
- ・中高生がお互いの活動を知り、共感し、認め合う
- ・参加者振り返り、アンケート記入

○参加者

後志管内中高生、社会教育担当者

感染拡大防止のため中止

中高生がお互いの活動を知り、
共感し、認め合う

自己肯定感の更なる高まり

社会教育担当者アンケート

目的

管内の社会教育担当者が連携して事業を実施することにより広域的・効果的な学びの場の提供を図る。

○質問内容

- ・まちでの事業の位置づけ→総合計画、教育計画 等
- ・まちで若年層を活用する事業の有無
- ・若年層への周知、事業実施の工夫 等
- ・若年層の変容（担当者から見て）
- ・まちでの広報のあり方



結果については、令和4年2月25日（金）オンライン開催
『第3回後志管内社会教育主事等会議』の中で報告

社会教育担当者アンケートから①

回答数 11 市町村

- ①若年層を活用できる事業がある **8市町村**
- ②計画に位置付けられている **7市町村**
- ③今後もジュニアリーダーワークショップ事業
を継続したほうが良い **10市町村**

賛成意見 ・ 以前から開催されている「ジュニアリーダーコース」については、宿泊を伴う参加のため、ハードルが高いと思われませんが、「しりべしジュニアリーダーワークショップ」については、宿泊を伴わず、事前研修のみの参加や、事前研修に参加しなくても、その後の事業には参加可能であるなど、**参加しやすい条件の事業**であることから継続した方が良いと思われま

社会教育担当者アンケートから②

回答数 11 市町村

賛成意見

- ・ 後志全体でジュニアリーダー事業を実施することで町が単独でジュニアリーダー事業を実施するよりも**事業内容の幅が広がり**、ジュニアリーダーの育成に繋がる。また、他市町村がどのような事業を展開しているか知ることができるので、**社会教育担当者のスキルアップ**も図れると思う。
- ・ **中学校から「来年もやってほしい」**との声がありました。
- ・ せっかくの後志全体での活動なので、後志の参加市町村同士の交流は実現させたい。

反対意見

- ・ **ネイパル森の代替事業**と承知している。ネイパル森が使えれば行わなくてもよいのでは。

社会教育担当者アンケートから③

回答数 1 1 市町村

- ④ **苦勞した点**
 - ・ 募集してから事業の実施までを短い期間で行ったため、回数を重ねて説明・打合せができず、**活動内容を深めることができなかった。**
 - ・ 新規で事業を起こさず、**既存の事業に盛り込もう**とした点

- ⑤ **若年層の変容**
 - ・ 事前練習の際は、まだ慣れていないこともあり不安要素もあったが、当日は中学生でどうすれば盛り上がるのか考えながら進行していたように感じた。また、実施前は緊張していたが、終了後には「**また、手伝いたい**」などの声も挙がっていたので**事業を通して自信がついた**ように見えた。

 - ・ 学校に生徒の普段の様子を聞くと、参画した生徒は、学校ではそれほどリーダーシップや積極性を発揮するタイプではないとのことであったが、本事業に参画しているときは、**非常に積極的で、まわりとのコミュニケーションもスムーズにとっていた**。学校としても生徒の活動に対して驚いていた。

北海道の将来人口

2020年 521.7万人



2045年

400.5万人 (約25%) 減

出典 国土交通省

25年後



自己肯定感

中高生
若年層

しりべしジュニアリーダー
ワークショップ事業

まちづくり
地域づくり

それぞれのまちの社会教育行政が継続して取り組む必要性

ご清聴ありがとうございました。

